

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：10101

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02381

研究課題名（和文）国際的・横断的資格認証枠組みに基づく大学入学者選抜に関する国際比較研究

研究課題名（英文）International Comparative Study on University Admissions Based on International and Cross-Sectoral Qualification Recognition Frameworks

研究代表者

飯田 直弘（IIDA, Naohiro）

北海道大学・高等教育推進機構・准教授

研究者番号：80578063

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、イギリス、フランス、韓国、日本の大学入学者選抜に焦点を当て、制度の並置比較と大学のケース・スタディに基づき、国内外の多様な資格の承認の特質と課題について分析・考察した。その結果、多様な背景の志願者を受け入れる方向性や国内情報センター（NIC）の設置については共通するものの、高等教育の市場化が進んだイギリス、国内市場を中心とするフランス、同じ東アジアの国でも高等教育及び大学入学者選抜の制度と実態が異なる韓国と日本の間には、NICの役割・機能、資格の承認・評価の方法と、入学後の質保証、留学生の受け入れに対する目的意識や積極性などの点において多くの相違点が存在することが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
国や地域を横断する資格・能力承認の枠組みに基づく大学入学者選抜方法の開発は、グローバル化が進む日本の高等教育において喫緊の課題である。本研究で得られる成果は、円滑で一貫性のある高大接続のあり方を検討するうえで示唆に富み、高等教育の質保証につながる。

研究成果の概要（英文）：This study examined the characteristics and challenges of recognizing diverse qualifications in university admissions across the UK, France, South Korea, and Japan through a comparative analysis of systems and case studies of universities. As a result, while there are commonalities in the direction of accepting applicants from diverse backgrounds and the establishment of National Information Centers (NICs), significant differences exist among the countries in terms of the roles and functions of NICs, methods of qualification recognition and evaluation, quality assurance after admission, as well as the purpose and enthusiasm in accepting international students. These differences are influenced by factors such as the marketization of higher education in the United Kingdom, the focus on the domestic market in France, and the distinct institutional and practical aspects of higher education and university admissions in South Korea and Japan, despite them being both East Asian countries.

研究分野：比較教育学

キーワード：外国・国際資格の承認・評価 大学入学者選抜 国際比較 FCE NIC ENIC-NARIC

1. 研究開始当初の背景

現在、日本の大学にとってグローバル化への対応は喫緊の課題となっており、この状況は「スーパーグローバル大学等事業」などにより今後一層進展すると考えられる。そこで最も重要な課題の一つが、日本以外の国・地域の学習者の入学者選抜方法の開発である。近年、国際バカロレアに対応する新しい入試を導入する大学も増加しており、多面的・総合的評価に基づく入試改革の動向と相まって、大学入学者選抜は多様化が進んでいる。しかし、既存の入学者選抜においては外国資格の成績がうまく活用されておらず、評価の客観性や学力担保にかかわる問題が存在する。それらの問題を克服し、優秀な人材を獲得するためには、学習者のもつ資格や能力を国際的・横断的に承認する方策が必要不可欠となる。

また、韓国でも高等教育のグローバル化の影響から、国際バカロレアを含む外国(国際)資格を大学入学者選抜に積極的に活用する動きがみられ、それらを国内の資格や入試制度とどのように対応・接続させるのかという点で大きな課題を抱えている。また、韓国国家資格枠組み(KQF)及び国家職務能力標準(NCS)という資格・能力枠組みに基づくカリキュラムが高校や大学に導入されており、高校の職業教育から大学への接続が重要な課題となっている点で、日本と同様に大学入学者選抜の国際化・多様化が求められているといえる。

一方、ヨーロッパでは、ボローニャ・プロセスにより、国や地域を越えた学習者の往来を可能にするため、資格の比較可能性及び同等性を担保するヨーロッパ資格枠組み(EQF)等の枠組みが整備されてきた。中でもイギリスでは、1990年代以降、国家資格枠組みの導入やヨーロッパ資格枠組みへの対応など、早くから資格枠組みの整備が進められてきた。特に、大学入学者選抜に関しては、それぞれ固有の教育・資格制度をもつイングランド(及び北アイルランド)、ウェールズ、スコットランドの大学が加盟するUCAS(大学・カレッジ入学機構)という横断的機関が存在し、連合王国内外の多種多様な資格の互換性を担保する資格ポイント換算表(UCAS Tariff)を開発しており、各大学はこれを利用・参照して入学要件や選抜基準を決定している。また、イギリスとフランスを含むEU諸国では、ENIC-NARIC(ヨーロッパ情報ネットワークセンター EU国家学位・資格承認情報センター)という機関が各国に存在し、資格の承認のための枠組みを構築している。さらには、入学後の教育プログラム同士の互換性を高めるECTSという単位換算システムも存在する。

このように、国・地域及び資格の種類(アカデミック資格/職業資格)を横断する枠組みに基づき、各大学・学部・学部の裁量によって入学要件や選抜基準を決定するモデルは、日本の高等教育のグローバル化に対応した入学者選抜と円滑で一貫性のある高大接続のあり方を検討する上で示唆に富む。本研究の根幹には、世界のさまざまな国・地域の多種多様な資格が、日本の資格や大学入試で求められているものに比べてどのような質・水準であり、どのような方法でどのような高等教育に接続できるのか、また、歴史的・制度的・社会的背景の異なる国・地域間で比較可能性及び同等性を担保する枠組みのメリットとデメリットは何か、という問いが存在する。

2. 研究の目的

本研究は、イギリス、フランス、韓国、日本の大学入学者選抜に焦点を当て、制度の並置比較と大学のケース・スタディに基づき、国内外の多様な資格の承認の特質と課題を明らかにすることを目的とする。以上の成果に基づき、高等教育のグローバル化に対応した国際的・横断的資格承認枠組みに基づく日本の大学入学者選抜方法について、制度設計、制度の運用と課題、入学要件と選抜基準のパターン、多様な実態を生み出す諸要因などの点から提言を行う。国や地域を横断する資格・能力承認の枠組みに基づく入学者選抜方法の開発は、グローバル化が進む日本の高等教育において喫緊の課題であり、高等教育の質保証につながる。

上記の目的を達成するため、本研究では、政策・制度が形成され浸透する過程を3つのレベルに分け、国際的・横断的資格(能力)承認の枠組みや外国・国際資格の評価に基づく大学入学者選抜に関連する政策・制度及び取り組み<メゾ>が、当該国や域内の教育改革全体の動向やその政治的・社会的・歴史的背景<マクロ>にどのように位置づけられるのか、また、各大学の入学者選抜にどのように反映されているのか<ミクロ>を明らかにする。

メゾ・レベルには、UCAS Tariff、UK NARICとENIC-NARIC Franceによる資格承認の取り組み、ECTSによる単位換算システム、各国の国家資格枠組み、韓国のNCSの他、各国の外国(国際)資格の評価に基づく大学入学者選抜に関する政策・制度などが含まれる。開発担当者や専門家へのインタビューにより、それらの枠組みや資格の評価方法を設計・開発・運用する上での具体的な手順、利害関係者との協働・調整方法、課題等のデータを収集する。その際、教育方法学及びテスト理論・統計学の側面から、妥当性・信頼性についても検討する。また、ミクロ・レベルでは、大学のケース・スタディにより、外国(国際)資格の評価方法・基準、入学要件と選抜基準のパターン、多様な実態を生み出す諸要因を明らかにする。

さらには、並置比較により各国の共通点と相違点を明らかにした上で、国際的・横断的な資格・能力承認枠組みに基づく大学入学者選抜方法について検討する。その際、テストや資格の成績の比較・換算だけでなく、多面的・総合的評価の側面からも十分に検討する。

3. 研究の方法

研究方法については、文献研究と現地調査を行う。文献研究では、先行研究、国際機関及び各国政府等の政策文書・報告書、UCAS や ENIC-NARIC 等の機関が発行する資料・報告書、大学入学要件のデータ等を分析する。現地調査では、国際的・横断的資格承認枠組みの開発担当者や専門家へのインタビューと大学のケース・スタディを実施する。

大学のケース・スタディでは、主にアドミッション・オフィサーにインタビューを行う。その際、イン (Yin, R. K.) (1996, 2002) の「分析的一般化」を援用し、また、グラウンデッド・セオリーにみられるような、データの収集・整理・分析、研究枠組みの精緻化のサイクルを調査ごとに繰り返す手法を採用する。これらの手法により、従来の外国調査研究、国際比較研究において散見される、特殊なケースのみで一般化する危険性を回避する。さらに、前科研の成果に基づき、調査・分析の枠組みとして「大学の歴史的・学術的背景」、「学問分野」、「大学の所在地の地理的条件」の3つの軸を設け、仮説を立てる。

4. 研究成果

(1) 各年度の研究実績・成果

2018年度は、7月と1月に研究会を開催し、各国(英・仏・韓)の外国・国際資格の承認機関及び大学のアドミッションの特徴に関する報告を行った。その後、調査項目について検討し、2019年3月にイギリスとフランスで現地調査を行った。まず、イギリス調査では、7大学を訪問し、アドミッション・オフィス並びにインターナショナル・オフィスの職員への半構造化インタビューを行った。次に、フランス調査(調査費用については大学入試センターからも支出)では、ENIC-NARIC フランスと高等教育省を訪問し、職員への半構造化インタビューを行った。

現地調査の結果は次のとおりである。まず、イギリス調査では、各大学が入学要件・選抜基準を決定する際、外国・国際資格の承認機関である UK NARIC の情報を補助的に用いるだけでなく、競争相手の大学の入学要件、UCAS が公表する情報なども参考にしていることなどが明らかとなった。次に、フランス調査では、ENIC-NARIC フランスの承認する資格が中等教育段階のアカデミック資格だけではなく、職業資格や高等教育段階の資格も対象とすること、所定の規準にしたがい10段階で承認すること、承認する上での課題などが明らかとなった。また、新しい入学制度である高等教育進路選択システム(Parcoursup)の運用実態について情報収集した。

2019年度は、6月に研究会を開催し、従前の文献研究と現地調査の結果に基づき、英・仏・韓の大学入学者選抜・振分け制度における外国・国際資格の承認機関の役割・機能に関する報告を行った。また、その内容に基づき、日本比較教育学会第55回大会で研究発表を行った。

その後、7月にフランスの高等教育機関への留学を推進する公的機関である Campus France Japon へのインタビュー調査を実施した。同調査では、非 EU 圏の外国人志願者の振分け制度である DAP における日本人志願者への面接の評価規準や大学による面接結果の活用方法などについて質問した。また、2020年3月初旬に日本の高等教育資格承認情報センターとフランス・パリの選抜性の高い大学(大学名とインタビューの氏名は非公開)へのインタビュー調査を実施した。高等教育資格承認情報センターの調査では、センター開設の背景・目的、役割・機能、組織体制、他国のカウンターパート機関との連携、資格承認の取り組みに関する情報収集・活用の方法、今後の事業計画などについて質問した。また、フランスの大学調査では、組織学のプログラムの振分け委員長に対して、フランス人志願者及び EU 圏内の外国人志願者の振分け制度である Parcoursup と DAP における振分けの具体的方法について質問した。

2020年度は、文献研究を進めるとともに、前年度までに収集した調査データの整理・分析を行った。イギリスについては、前回実施した調査のデータ分析を進めるとともに、調査項目(大学の背景、組織体制とアドミッションのプロセス、入学要件と選抜基準、資格枠組み、各資格・従前の学習経験の取り扱い、進学移動、入学後の教育・成績、高等教育政策の動向と教育市場の競争的環境が入学者選抜に与える影響)の整理を行った。それに加え、今回の調査で必要となる大学の基礎データ一覧を作成した。また、韓国については、日韓の大学入学者選抜における国際的な資格承認の課題を俯瞰的に捉えた上で、高校単位制とハングル版 IB の導入が大学入学者選抜に与える影響について検討した。

フランスについては、3つの大学を対象としたオンラインインタビュー調査を実施した。まず、ディドロ大学(異文化間コミュニケーションのプログラム)の調査では、振分け(選抜性・非選抜性)にかかわる委員会組織や志願者数に関する情報に加え、外国人志願者の振分け方法に関する情報を得ることができた。次に、パリ西大学の調査では、特に修士課程への入学を志願する外国人学生の選抜に関する情報を得ることができた。最後に、ヴェルサイユ・サンカンタン・アン・イヴリーヌ大学(社会学プログラム)の調査では、外国人志願者の選抜方法に関する情報を得ることができた。

以上を踏まえ、3月に研究会を開催し、今後の研究の方向性と推進方策について協議した。その結果、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が収束しない場合は、可能なかぎりオンラインでのインタビュー調査に切り替えることとなった。

2021年度は、文献研究を進めるとともに、前年度までに収集した調査データの整理・分析を行った。

イギリスについては、引き続きこれまでの調査のデータの分析を進めるとともに、調査項目の

再検討を行った。また、Times Higher Education (THE)におけるイギリスのトップ10の大学の入学要件に関するデータを集め、外国資格や国際資格(国際バカロレア等)がGCE-Aレベルをはじめとするイギリス国内の大学入学資格とどのように成績換算されているのかについて明らかにした。さらに、コロナ禍におけるイギリスの大学入学者選抜の現状と課題について情報をまとめ、大学入試センター・シンポジウム2021で発表を行った。

フランスについては、これまでに実施した4件のインタビューデータの分析を進めるとともに、フランスの高大接続改革と高等教育進路選択改革について情報をまとめ、『教育制度学研究』と大学入試センターの報告書などで発表した。

韓国については、新型コロナウイルス感染症の影響により現地調査が行えず、ウェブによる情報収集、在日本韓国大使館関係者などへのヒアリングを行った。韓国での調査の受け入れは許可が得られているため、渡航制限が解除され次第、速やかに調査を行う予定である。また、イギリスと同様に、韓国の大学入試におけるコロナ禍対応について情報をまとめ、大学入試センター・シンポジウム2021で発表を行った。

最終年度は、イギリスの大学のアドミッションの特徴・課題と、国内外の多種多様な資格の承認・評価の方法についてまとめた。また、フランスの高大接続と接続評価について、大学や社会が求める能力が確実にバカロレアで問われており、大学への接続に至るまでの過程で評価の妥当性が確保されている点を明らかにした。さらに、日本の高大接続改革における大学入学者選抜の課題と今後の展望について考察するとともに、国際入試の現状と課題について2大学の事例研究を行った。以上の研究成果は、図書(分担執筆)・雑誌論文、報告書などのかたちで発表した。

また、インタビュー調査については、韓国の2つの大学の入試課職員、語学堂(韓国語教育機関)担当者、国立国際教育院の職員にインタビュー(オンライン、現地)を行った。また、イギリス現地では、国内外の資格情報の収集・分析・提供を行うECCTIS主催の会議に参加し、参加者と意見交換を行った。

(2) 分析・考察

以上の文献研究及びインタビュー調査等に基づき、国際比較の観点から分析・考察を進めた結果、以下の点が明らかとなった。

まず、多様な資格・テストの比較可能性・同等生を確保する方法として、シラバスや評価基準に関する資料の検討、外国の資格承認機関の情報の参照、競合大学の要件の参照、民間企業のサービスの利用があげられる。また、これらに加えて、入学後の成績について追跡調査し、それに基づき成績換算表を再調整することも重要な点である。

次に、多様な背景の志願者を受け入れる方向性や国内情報センター(NIC)の設置については共通するものの、高等教育の市場化が進んだイギリス、国内市場を中心とするフランス、同じ東アジアの国でも高等教育及び大学入学者選抜の制度と実態の異なる韓国と日本の間には、NICの役割・機能、資格の承認・評価の方法と入学後の質保証、留学生の受け入れに対する目的意識や積極性などの点において多くの相違点が存在することが明らかとなった。

以上を踏まえ、日本の国際入試の課題について、以下の3つの視点から検討した。

第1に、入学資格(要件)と選抜方法に関する課題である。同一募集単位で多様な資格・テスト(の科目や成績)を入学資格(要件)として課し、さらにその成績に基づき選抜を行う場合、いかに比較可能性・同等性を担保するかが重要となるが、日本のNICの役割・機能は情報提供の側面が強いため、各大学は個別にこの問題に対応する必要がある。近年、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響から、対面での面接や学力試験の実施が困難であったが、そのような状況においては、資格の承認・評価がいっそう重要な要素となる(ただし、志願者の出身国においても外部試験が実施されなかった場合は注意が必要である)。一方で、IB等の予測スコアと最終スコアの格差の問題など、成績換算に基づく選抜には限界があるので、書類審査や面接の妥当性・信頼性の向上とあわせて考える必要がある。

第2に、入試制度の多様化に関する課題である。近年、既存の帰国子女入試や私費外国人留学生入試に加えて、IB入試等の多様な国際入試の事例が存在するが、基礎資格が同じで同一日程で実施される場合、(総合型選抜も含めて)一部で志願者を取り合うことになる可能性がある。そのため、入試制度全体を俯瞰的に捉えることが重要となる。また、入試広報等の機会において、個々の入学希望者の背景(学習歴)やニーズに合った情報を提供することが求められる。

第3に、入学後の教育と財政的支援に関する課題である。国際入試の入学者は、特別な教育プログラムに対応する入試の場合を除き、一般選抜による学生と同じ教育を受けることになる。そのため、英語を教授言語とする授業の数や既習得単位の認定等に関連するミスマッチの問題が生じる可能性がある。また、入学時点で奨学金が確約されているかどうかも志願者にとって重要な要素となる。これらの点は、入学辞退者や中途退学の問題に密接に関係していると考えられる。そのため、外国・国際資格の制度及び国際入試の概要についてしっかり把握した上で入試広報を行い、適切なマッチングを実現する必要がある。

(3) まとめと今後の展望

まとめと今後の展望は、次の4つの点に要約される。第1に、世界の趨勢としては、多様な学位・資格を承認し、より円滑なクロス・ボーダーが可能となりつつあるが、日本のNICの役割・

機能は情報提供の側面が強く、また、国際入試は小規模・局所的なものにとどまる。第2に、新自由主義的な政策背景により、高等教育の市場化が一層進み、今後グローバルな競争が激化することが予想される。第3に、そのような状況の中、インドやアフリカといった第三世界の高等教育ニーズの拡大にどのように対応するのかが重要となる。最後に、以上の点が大学入学者選抜に与える影響として、将来、国際入試の規模が拡大し、志願者数や倍率が増加した際、改めて評価の妥当性・信頼性及び入学者選抜の公平性・公正性が問題になることが予想される。

<参考文献・資料>

芦沢真五 (2017) 「外国学歴・資格認証システムとNQF～日本への示唆～」
https://www.toyo.ac.jp/uploaded/life/344306_483403_misc.pdf#search=%27ENICNARIC+%E8%8A%A6%E6%B2%A2%27 (2023年5月28日アクセス)

飯田直弘 (2023) 「コロナ禍におけるイギリスの大学入学者選抜の現状と課題 GCE-A レベル試験の中止と代替措置を中心として」、倉元直樹 (監)、倉元直樹・久保沙織 (編著) 『コロナ禍に挑む大学入試 (2) 世界と日本編』、金子書房、pp. 71-95。

独立行政法人大学評価・学位授与機構 (2016) 『学生移動 (モビリティ) に伴い国内外の高等教育機関に必要なとされる情報提供事業の在り方に関する調査』、独立行政法人大学評価・学位授与機構。

藤井佐知子 (1994) 「フランスの資格制度 特質と課題」 『生涯学習と資格』 第15号、pp. 105-110。

細尾萌子・田川千尋・大場淳 (2018) 「フランスの高大接続改革の動向 バカロレア試験への内申点活用と進路選択システムの見直し」 『フランス教育学会紀要』 第30号、pp. 77-88。

Green, F. and Vignoles, A. (2012) “An Empirical Method for Deriving Grade Equivalence for University Entrance Qualifications: An Application to A levels and the International Baccalaureate”, *Oxford Review of Education*, Vol. 38, No. 4, pp. 473-491.

Hubble, S., & Bolton, P. (2020) *A level results in England and the impact on university admissions in 2020-21 (Briefing Paper, No. 8989)*, House of Commons Library.

Nuffic (2012) *European Area of Recognition Manual: Practical guidelines for fair recognition of qualifications*.

Raffe, D. (2011) “National Qualifications Frameworks: What Can Be Learnt from the International Experience?”, *Journal of Contemporary Educational Studies*, 4.

Roberts, N., & Danechi, S. (2021) *Coronavirus: GCSE, A Levels and Equivalents in 2021 and 2022*, House of Commons Library.

SQUARE project (n.d.) *Typology of recognition centres*.
https://www.enic-naric.net/Upload/SQUARE_overview_typology.pdf (2023年5月28日アクセス)

UCAS (2014) *Introducing a New Tariff – Proposal (Technical Briefing Document)*.

UCAS (2016) *UCAS Tariff Tables: New Tariff Points for Entry to Higher Education from 2017*.

UK NARIC (2004) *Grading Transfer System: Increasing Transparency of Access Qualifications for Higher Education in Europe*.

UK NARIC (2004) *Increasing Transparency of Access Qualifications for Higher Education in Europe*.

UK NARIC (2006) *Evaluation of European Recognition Criteria to Promote Good Practice*.

UK NARIC (2008) *Formal Recognition of Non-Formal and Informal Learning: A Study Exploring the Possibilities of Formal Recognition of Non-Formal and Informal Learning – Final Report*.

UK NARIC (2010) *Recognition of Formal, Non- and Informal Learning: Use of Learning Outcomes (REFNILLO) – Final Report*.

UK NARIC (2014) *The Changing Role of NARICs (CHARONA) – Final Report*.

UK NARIC (2016) *The Changing Role of NARICs (CHARONA): Stakeholder Perspective – Final Report*.

① MEN = Ministère de l'Éducation nationale (2018) *Repères et références statistiques*.

② 『フランスの高等教育』、文芸春秋、2011年。

③ 『フランスの高等教育』、文芸春秋、2011年。

④ 『フランスの高等教育』、文芸春秋、2011年。

⑤ 『フランスの高等教育』、文芸春秋、2011年。

⑥ 『フランスの高等教育』、文芸春秋、2011年。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計16件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Iida Naohiro	4. 巻 -
2. 論文標題 Evaluation and Assessment to Improve Student Outcomes	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Akito Okada & Sam Bamkin (eds.) Japan's School Curriculum for the 2020s: Politics, Policy, and Pedagogy, Springer	6. 最初と最後の頁 67-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-19-2076-9_5	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 飯田直弘	4. 巻 -
2. 論文標題 イギリスコロナ禍におけるイギリスの大学入学者選抜の現状と課題 GCE-Aレベル試験の中止と代替措置を中心として	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 倉元直樹 (監)、倉元直樹・久保沙織 (編) 『コロナ禍に挑む大学入試 (2) 世界と日本編』、金子書房	6. 最初と最後の頁 71-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 井口啓太郎・田中光晴	4. 巻 27
2. 論文標題 知的障害者の包摂を目指す高等教育機関の実践と課題 : 日本と韓国における近年の動向から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 東アジア社会教育研究	6. 最初と最後の頁 240-256
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中光晴	4. 巻 -
2. 論文標題 第6章 韓国	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 文部科学省 『諸外国の教育動向 2021年度版』、明石書店	6. 最初と最後の頁 226-264
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中光晴	4. 巻 -
2. 論文標題 31章 韓国の学校	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 二宮皓（編著）『世界の学校』、学事出版	6. 最初と最後の頁 242-249
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花井渉・荒井清佳・桜井裕仁・椎名久美子・伊藤圭・大塚雄作	4. 巻 33
2. 論文標題 一般選抜における多面的・総合的評価等の実態と課題 令和3年度大学入学者選抜における選抜資料の利用状況に関する実態調査結果の分析	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 大学入試研究ジャーナル	6. 最初と最後の頁 299-305
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Wataru Hanai, Hiroki Nakanishi, Naohiro Iida, Sayaka Mitarai and Masaaki Yanagida	4. 巻 5
2. 論文標題 Bridging the Academic-Vocational Divide in Secondary Education: A Curriculum Analysis of the International Baccalaureate Career-related Programme in England	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 国際バカロレア教育研究	6. 最初と最後の頁 31-42
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 細尾萌子	4. 巻 28
2. 論文標題 フランスにおける高等教育進路選択改革の高校教育への影響	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 教育制度学研究	6. 最初と最後の頁 238-239
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細尾萌子	4. 巻 32
2. 論文標題 「効果のある学校」における指導法・教員間の協働・個別支援の一事例 バカロレア試験で問われる思考力・表現力をいかに育成するか	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フランス教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 55-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細尾萌子	4. 巻 32
2. 論文標題 歴史と英語と数学のバカロレア試験で問われる思考力 試験問題分析を通して	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 フランス教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 117-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細尾萌子	4. 巻 27
2. 論文標題 フランスの高校普通科における指導法の事例 バカロレア試験で問われる思考力・表現力の育成に向けて	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日仏教育学会年報	6. 最初と最後の頁 32-42
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花井渉	4. 巻 4
2. 論文標題 国際バカロレア教育の効果に関する調査研究 [特集：IB教育の成果とは何か]	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 国際バカロレア教育研究	6. 最初と最後の頁 5-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 花井渉	4. 巻 47
2. 論文標題 イギリスにおける専門的なアドミッション・オフィサーの養成・研修に関する研究 - アドミッションにおける専門性開発支援 (SPA) に着目して -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 大学入試センター研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細尾萌子・田川千尋・大場淳	4. 巻 第30号
2. 論文標題 フランスの高大接続改革の動向 パカロレア試験への内申点活用と進路選択システムの見直し	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 フランス教育学会紀要	6. 最初と最後の頁 pp. 77-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 細尾萌子	4. 巻 No. 4
2. 論文標題 フランスの高大接続からのヒント 思考力・表現力と内申点の評価	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 名古屋大学大学院教育発達科学研究科附属高大接続研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 pp. 80-110
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計27件 (うち招待講演 10件 / うち国際学会 1件)

1. 発表者名 Naahiro Iida
2. 発表標題 Roles and Functions of Foreign and International Qualifications Recognition Bodies in University Admissions Selection
3. 学会等名 Look Forward the Next Generation Education Exchange & Cooperation among China, Japan, and Korea (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯田直弘
2. 発表標題 高大接続と多面的・総合的評価に基づく大学入学者選抜の課題 比較教育学の見地から
3. 学会等名 札幌保健医療大学第1回FD・SD研修会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 細尾萌子
2. 発表標題 フランスの高大接続システムと接続評価
3. 学会等名 京都高大連携研究協議会第20回高大連携教育フォーラム第2部特別分科会 【高大接続】「持続可能な社会の創り手の育成につながる高大接続～国際比較から見える可能性～」（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 花井渉
2. 発表標題 イギリスの高大接続改革における公平性・公正性 - 「資格取得後のアドミッション（PQA）」に関する諮問に対するレスポンスの検討 -
3. 学会等名 第58回日本比較教育学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 飯田直弘
2. 発表標題 コロナ禍におけるイギリスの大学入学者選抜の現状と課題 GCE-A レベル試験の中止と代替措置を中心として
3. 学会等名 大学入試センター・シンポジウム2021「COVID-19の災禍と世界の大学入試」（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 細尾萌子
2. 発表標題 フランスにおける学習の個別化と協働的な学びの現状とその位置づけ 中等教育を中心に
3. 学会等名 日本比較教育学会第57回大会シンポジウム「新時代の子どもの学びの在り方を国際的に考える 求められる資質能力と学習のアプローチをめぐって」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 細尾萌子
2. 発表標題 『フランスのパカロレアにみる論述型大学入試に向けた思考力・表現力の育成』(細尾萌子・夏目達也・大場淳編著、ミネルヴァ書房、2020年)
3. 学会等名 日本比較教育学会「書籍紹介」プログラム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中光晴
2. 発表標題 韓国の大学入試におけるコロナ禍対応
3. 学会等名 大学入試センター・シンポジウム2021「COVID-19の災禍と世界の大学入試」(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 細尾萌子
2. 発表標題 高等教育進路選択制度の改革は高校での進路指導を変えるか：フランスの場合
3. 学会等名 日本教育制度学会課題別セッション
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中光晴
2. 発表標題 韓国の教育行政におけるコロナ禍対応
3. 学会等名 日本教育行政学会国際交流委員会研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 花井渉
2. 発表標題 国際バカロレア導入に伴う教員の変容に関する研究
3. 学会等名 第5回日本国際バカロレア教育学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 花井渉
2. 発表標題 国際バカロレア入試の現状と課題 日英における資格認証を中心に
3. 学会等名 広島大学海外高大接続シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 飯田直弘・細尾萌子・田中光晴・花井渉
2. 発表標題 英・仏・韓における外国・国際資格の認証機関の役割と機能 大学入学者選抜・振分け制度における機関の位置づけに焦点を当てて
3. 学会等名 日本比較教育学会第55回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 細尾萌子
2. 発表標題 フランスの高大接続改革と、外国人の大学入学におけるENIC-NARIC Franceの役割
3. 学会等名 2019年度第1回調査室研究会（大学入試センター）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 花井渉
2. 発表標題 フランス高等教育・研究・イノベーション省（MESRI : Ministère de l'Enseignement supérieur, de la Recherche et de l'Innovation）アジア留学生担当局に関する報告
3. 学会等名 2019年度第1回調査室研究会（大学入試センター）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 飯田直弘
2. 発表標題 大学入学者選抜における外国・国際資格の評価方法及び認証枠組みの開発 UK NARIC とUCAS の役割・機能及び評価方法の比較を中心として
3. 学会等名 全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会（第13回）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Wataru Hanai
2. 発表標題 A baccalaureate system in the Japanese context: Review on post-16 education system in Japan
3. 学会等名 11th Biennial Conference, Comparative Education Society of Asia (CESA)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花井 渉
2. 発表標題 イギリスの資格認証評価制度におけるUK-NARICの位置づけ 組織と機能に着目して
3. 学会等名 日本比較教育学会第54回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 細尾 萌子・渡邊 雅子・大場 淳
2. 発表標題 フランスの高大接続の特質 論述試験に向けた思考力・表現力の育成
3. 学会等名 日本教育学会第77回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花井 渉・中西 啓喜・飯田 直弘・御手洗 明佳・柳田 雅明
2. 発表標題 イギリス・ケント州における国際バカロレアキャリア関連プログラム（IBCP）の導入背景と直面する課題
3. 学会等名 日本教育学会第77回大会（ラウンドテーブル）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 柳田 雅明・御手洗 明佳・飯田 直弘・花井 渉・中西 啓喜・赤塚 祐哉
2. 発表標題 職業・キャリア教育には国を超える制度設計が有効か：国際バカロレア・キャリア関連プログラム（IBCP）における展開
3. 学会等名 第3回日本国際バカロレア教育学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花井 渉
2. 発表標題 国際バカロレア開発50年の展開と今後の方向性 年次報告書を中心に
3. 学会等名 第3回日本国際バカロレア教育学会全国大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 大場 淳・細尾 萌子
2. 発表標題 フランスの高大接続改革は民主化を促すか 高等教育進路選択システム(Parcoursup)に焦点をあてて
3. 学会等名 フランス教育学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 細尾 萌子
2. 発表標題 バカロレア試験で問われる思考力とその育成
3. 学会等名 HEADセミナー & フランス教育学会研究懇話会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 細尾 萌子
2. 発表標題 フランスの高大接続からのヒント 思考力・表現力と内申点の評価
3. 学会等名 名古屋大学高等教育研究センター招聘セミナー（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 飯田直弘
2. 発表標題 ENIC-NARICによる外国・国際資格の認証・評価と大学入学者選抜における役割・機能 UK NARICの事例を中心として
3. 学会等名 国家・分野横断型資格枠組みに基づく入学者選抜に関する研究会 (ACQUA)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 細尾萌子
2. 発表標題 フランスの新しい大学入学者振分システムParcoursupと留学生の大学入学方法の特徴
3. 学会等名 国家・分野横断型資格枠組みに基づく入学者選抜に関する研究会 (ACQUA)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 細尾萌子、生田清人、上垣豊、大津尚志、大場淳、田川千尋、夏目達也、三好美織、山村滋	4. 発行年 2022年
2. 出版社 広島大学高等教育研究開発センター	5. 総ページ数 122
3. 書名 大衆教育社会におけるフランスの高大接続 (高等教育研究叢書164)	

1. 著者名 細尾萌子、夏目達也、大場淳	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 298
3. 書名 フランスのパカロレアにみる 論述型大学入試に向けた思考力・表現力の育成	

〔産業財産権〕

〔その他〕

・田中光晴「尹錫悦新政権発足と高等教育分野の国政課題」『IDE現代の高等教育』No. 645、pp. 64-68、2022年11月。
 ・花井渉「イギリスの高大接続システムとその公平性をめぐる論議」『2020年代を通じて実現すべき高大連携 - 生徒・学生が「持続可能な社会の創り手」となるために - 』、第20回高大連携教育フォーラム報告集、京都高大連携研究協議会、pp. 147-156、2023年3月。
 ・細尾萌子「フランスの高大接続改革と、外国人の大学入学におけるENIC-NARIC Franceの役割」、独立行政法人大学入試センター入学者選抜研究に関する調査室編『多面的・総合的な評価に基づく大学入学者選抜に関する海外調査報告書』、2021年8月、pp. 77-85。

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	細尾 萌子 (HOSOO Moeko) (70633808)	立命館大学・文学部・准教授 (34315)	
研究分担者	田中 光晴 (TANAKA Mitsuharu) (00583155)	国立教育政策研究所・国際研究・協力部・フェロー (62601)	
研究分担者	花井 渉 (HANAI Wataru) (60783107)	独立行政法人大学入試センター・研究開発部・助教 (82616)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	大場 淳 (Oba Jun)	広島大学・高等教育研究開発センター・准教授 (15401)	
研究協力者	岩間 徳兼 (IWAMA Norikazu)	北海道大学・高等教育推進機構・准教授 (10101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------